

御前山ビオトープ通信

平成20年7月30日

第21号

編集：NPO「美しい田園21」 清野



メール：denen21@hb.tp1.jp

ホームページ： 工事中

目次

- 1 御前山ビオトープ育成活動を実施
選抜除草、株分け移植、魚道改修
- 2 入り口に待望の看板完成！

【案内図】



1 御前山ビオトープ育成活動を実施

御前山ビオトープは国営那珂川沿岸農業水利事業の基幹水源である御前山ダム建設に伴って湛水敷地に生息、生育していた希少動植物を移植保護する地域です。

地元檜山集落が中心となって管理していますが、移植した動植物などが雑草等に負けずに定着できるように定期的に手を入れ



ていく必要があります。専門用語で順応的管理(アダプティブマネジメント)といいますが、

ビオトープ育成作業としては今年が5年目、平成20年7月24日(木)に檜山集落と国営事業所やNPO「田園21」などとの共同作業を実施しました。

今までの活動によって希少植物等の保護地域としては定着したことから、地元集落の地域活性化のために活用したいとの要望を受け、今回は外部から訪れて感動できる規模の群落を育てようという夢ある取り組みにしました。また、8月7日(木)には市内の小学生が百数十名見学に訪れるということで、作業にも力が入ります。

当日の具体的な作業としては**林間に移植**した「フタバアオイ」と「イヌショウマ」の選抜除草と株分け作業を行いました。数年前に移植後、日射不足が懸念され一時期劣勢でしたが、数年間にわたっ





昼食、交流会

で間伐枝打ち作業を行った効果があったのか順調に定着成長しており、特に「フタバアオイ」は密植になるほど元気に増殖していたことから、今回、群落を株分けして倍近い規模に拡張移植する作業を行いました。「フタバアオイ」は御前山が水戸藩の御料林時代から大切にされていたもので徳川家の家紋「ミツバアオイ」の素材にもなっています。

小魚用魚道の改修は、数度の大雨洪水などでパイパスができてしまい、機能低下していたものです

が、調べた結果、本体は問題なく周辺の土木作業で機能復帰しました。

湿地性植物の選抜除草は、水路の「ナガエミクリ」湿田の「タコノアシ」「アギナシ」について、種毎に一枚の田んぼに分離して管理観察がしやすくなるように、一部移植しなおしました。

説明看板設置は、以前設置した看板の老朽化もありますが、生育場所の移動等もあり、現場評価と選抜除草と併せた作業です。

昼食は、作業が順調に進んで午前中で終了し、地元のご婦人による昼食の振る舞いがありました。ビオトープで昨年収穫した古代米のおにぎり、そうめん、手作りの漬物などが食べきれないくらいに用意されました。暑い一日でしたが屋外の作業後に木陰に集まって皆で食べる食事は格別です。

食事をしながら、作業状況報告や意見交換も行われました。トンボや蝶が舞い、ギボウシやユリ、アサザなどの花が満開の山間溪流地で気持ちのいい汗をかきました。また希望者には、今回初めてボランティア活動参加書が発行されました。



作業後

2 入り口に待望の看板完成

県道からの入り口が複雑で、イベントなどで訪れる人が道に迷うこともあり、かねてから看板の必要性は話題になっていました。



看板製作

看板デザインは NPO 会員の手作り、支柱用丸太は 桧山集落の皆さんが林間から切り出して皮むきなどの準備、据付は 7 月 30 日に国営事業所御前山支所、JV で施工と、皆の協働作業で完成しました。